



Service Registry 3 2005Q4 ユー ザーズガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-4047
2005 年 10 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品および本書は著作権法によって保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されな
い、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



051221@13215



目次

はじめに	7
1 Service Registry Web コンソールの使用法	15
Web コンソールについて	15
Web コンソールの起動	15
デフォルト言語の変更	16
レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化	17
ユーザーアカウントの作成	17
▼ ユーザー登録ウィザードの起動	18
▼ レジストリによって生成された証明書の取得	19
▼ サードパーティー証明書の使用	20
▼ Mozilla または Firefox Web ブラウザへの証明書の読み込み	20
▼ Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み	21
▼ レジストリへのログイン	22
レジストリの検索	23
「検索」メニューの使用	23
クエリーの選択	23
オブジェクト型による検索	24
▼ オブジェクト型で検索する	24
名前および説明による検索	25
▼ 名前および説明で検索する	25
分類による検索	25
▼ 分類で検索する	27
検索結果の表示	27
▼ ピン機能を使用する	28
オブジェクトの詳細の表示	29

「探索」メニューの使用	32
▼ 「探索」メニューを使用する	32
▼ Classification Scheme を探索する	32
▼ userData フォルダを探索する	33
レジストリオブジェクトの発行と管理	33
オブジェクトの発行	34
▼ 新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する	34
オブジェクトへの分類の追加	35
▼ 分類を追加する	35
オブジェクトへの外部識別子の追加	36
▼ 外部識別子を追加する	36
オブジェクトへの外部リンクの追加	37
▼ 外部リンクを追加する	37
スロットによるオブジェクトへのカスタム情報の追加	37
▼ スロットを追加する	38
Organization または User への住所の追加	38
▼ 住所を追加する	38
Organization または User への電話番号の追加	39
▼ 電話番号を追加する	39
Organization または User への電子メールアドレスの追加	39
▼ 電子メールアドレスを追加する	40
Organization へのユーザーの追加	40
▼ ユーザーを追加する	40
Organization への子組織の追加	41
▼ 子組織を追加する	41
Service へのサービスバインディングの追加	41
▼ サービスバインディングを追加する	41
サービスバインディングへの仕様リンクの追加	42
▼ 仕様リンクを追加する	42
Classification Scheme または Concept への子 Concept の追加	42
▼ 子 Concept を追加する	42
レジストリパッケージへのオブジェクトの追加	43
▼ レジストリパッケージにオブジェクトを追加する	43
オブジェクトの状態の変更	44
オブジェクトの削除	44
オブジェクト間の関係の作成	45
▼ Reference を作成する	46
▼ Association を作成する	46

障害追跡	47
Service Registry にアクセスできない	47
優先ロケールが使用されない	47
検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない	47
ExternalLink や ServiceBinding を作成できない	47
Web コンソールのエラーメッセージが消えない	48
新しいレジストリオブジェクトを保存できない	48
Web コンソールが応答しない	48

索引	49
----	----

はじめに

『Service Registry 3 2005Q4 ユーザーズガイド』では、Service Registry (レジストリ) で提供される Web コンソールユーティリティーの使用方法について説明します。Web コンソールを使用して、レジストリのデータを検索し、レジストリにデータを発行することができます。また、障害追跡に関する情報も示します。

対象読者

『ユーザーズガイド』は、レジストリを検索し、レジストリにデータを発行する管理者およびエンドユーザーを対象としています。このマニュアルは、ebXML レジストリおよびリポジトリ仕様の基本的概念に習熟している方を対象に記述されています。

お読みになる前に

次の仕様の基本的概念に習熟する必要があります。

- ebXML Registry Information Model Version 3.0
- ebXML Registry Services and Protocols Version 3.0

これらの仕様の最新公開バージョンを見つけるには、OASIS の Web サイト (<http://www.oasis-open.org/>) を参照し、ebXML RIM V3.0 および ebXML RS V3.0 のリンクをたどります。

Service Registry は、Java Web Services Developer Pack (<http://java.sun.com/webservices/jwsdp/>) の一部として、またはネットワーク内や Internet 環境に分散するエンタープライズアプリケーションをサポートす

るソフトウェアインフラストラクチャーである Sun Java Enterprise System のコンポーネントとして入手できます。Service Registry を Java Enterprise System のコンポーネントとして購入する場合は、<http://docs.sun.com/coll/1286.1> のシステムマニュアルの内容を理解しておく必要があります。

内容の紹介

このマニュアルの内容は次のとおりです。

第 1 章では、Web コンソールを使用してレジストリを検索し、レジストリにデータを発行する方法について説明します。また、障害追跡に関する情報も示します。

Service Registry のマニュアルセット

Service Registry のマニュアルセットは、<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1314.1> で入手できます。Service Registry の詳細については、次の表に示すマニュアルを参照してください。

表 P-1 Service Registry のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Service Registry 3 2005Q4 リリースノート』	既知の問題など、Service Registry に関する最新の情報が記載されています。
『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』	Service Registry のインストール後の設定方法、およびレジストリとともに提供される管理ツールの使用方法について説明します。また、その他の管理作業の実行方法についても説明します。
『Service Registry 3 2005Q4 ユーザーズガイド』	Service Registry の Web コンソールを使用して Service Registry を検索し、Service Registry にデータを発行する方法について説明します。
『Service Registry 3 2005Q4 Developer's Guide』	JAXR (Java API for XML Registries) を使用して Service Registry を検索し、データを発行する方法について説明します。

関連マニュアル

Service Registry をインストールすると、Sun Java System Application Server に配備されます。Application Server の管理については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q2 Administration Guide』を参照してください。

Java ES のマニュアルセットでは、配備計画とシステムインストールについて説明します。システムマニュアルの URL は <http://docs.sun.com/coll/1286.1> です。Java ES をはじめて使用する場合は、次の表に示すマニュアルを表の順番どおりに参照してください。

表 P-2 Java Enterprise System のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Release Notes』	既知の問題など、Java ES に関する最新の情報が記載されています。これ以外に、コンポーネントごとにリリースノートがあります。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Documentation Roadmap』	Java ES に関するすべてのマニュアルについて、システム全体と個々のコンポーネントの両面から説明します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Technical Overview』	Java ES の技術的および概念的な基礎について説明します。コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、および機能についても説明します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Deployment Planning Guide』	Java ES に基づく企業向け配備ソリューションの計画および設計について説明します。配備の計画および設計に関する基本的概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java ES に基づくソリューションを計画する際に使用する高度な例と戦略を提供します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Planning Guide』	Java ES の配備のハードウェア面、オペレーティングシステム面、およびネットワーク面に関する実装仕様の策定を支援します。インストールや設定の計画の中で解決する必要があるコンポーネントの依存関係などの問題について説明します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Guide for UNIX』	Solaris オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティングシステムに対する Java ES のインストール手順について説明します。また、インストール後のコンポーネントの設定方法と、コンポーネントの正常動作の確認方法を示します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Installation Reference』	設定パラメータに関する追加情報、設定の計画で使用するワークシート、およびデフォルトのディレクトリやポート番号などの参照資料の一覧を示します。

表 P-2 Java Enterprise System のマニュアル (続き)

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 2005Q1 Deployment Example Series: Evaluation Scenario』	任意のシステムに Java ES をインストールし、共有され、ネットワーク化されたコアとなるサービスを確立し、確立したサービスにアクセス可能なユーザーアカウントを設定する方法について説明します。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 アップグレードガイド』	Solaris オペレーティングシステムまたは Linux の動作環境で Java ES をアップグレードする手順を示します。
『Sun Java Enterprise System Glossary』	Java ES のマニュアルで使用される用語について説明します。

Java ES およびそのコンポーネントに関するすべてのマニュアルの URL は <http://docs.sun.com/prod/entsys.05q4> です。

デフォルトのパスとファイル名

次の表は、このマニュアルで使用されているデフォルトのパス名とファイル名について説明したものです。

表 P-3 デフォルトのパスとファイル名

プレースホルダ	説明	デフォルト値
<i>ServiceRegistry-base</i>	Service Registry のベースインストールディレクトリを表します。	Solaris システム: /opt/SUNWsoar Linux システム: /opt/sun/SUNWsoar
<i>RegistryDomain-base</i>	Service Registry の Application Server ドメインが配置され、Service Registry データベースが配置されているディレクトリを表します。	Solaris システム: /var/opt/SUNWsoar Linux システム: /var/opt/sun/SUNWsoar

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-4 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>aabbcc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コード例は次のように表示されます。

- C シェル
machine_name% **command y**|n [*filename*]
- C シェルのスーパーユーザー
machine_name# **command y**|n [*filename*]
- Bourne シェルおよび Korn シェル
\$ **command y**|n [*filename*]
- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

`command y|n [filename]`

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

コマンド例のシェルプロンプト

次の表は、デフォルトのシステムプロンプトおよびスーパーユーザープロンプトを示しています。

表 P-5 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX および Linux システムの C シェル	machine_name%
UNIX および Linux システムの C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
UNIX および Linux システムの Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
UNIX および Linux システムの Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#
Microsoft Windows のコマンド行	C:\

記号の表記規則

この表は、このマニュアルで使用される記号について説明したものです。

表 P-6 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[]	省略可能な引数やコマンドオプションが含まれます。	ls [-l]	-l オプションは必須ではありません。
{ }	必須のコマンドオプションの選択肢のセットが含まれます。	-d {y n}	-d オプションには、y 引数または n 引数のいずれかを使用する必要があります。
\${ }	変数参照を示します。	\${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値を参照します。
-	同時に実行する複数のキーストロークを結び付けます。	Control-A	コントロールキーを押しながら A キーを押します。
+	連続する複数のキーストロークを結び付けます。	Ctrl + A + N	Ctrl キーを押し、放してから、以後のキーを続けて押します。
→	グラフィカルユーザーインターフェースのメニュー項目の選択を示します。	「ファイル」→「新規」 →「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

第 1 章

Service Registry Web コンソールの使用法

この章では、Service Registry (レジストリ) の Web コンソールについて説明します。この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 15 ページの「Web コンソールについて」
- 23 ページの「レジストリの検索」
- 33 ページの「レジストリオブジェクトの発行と管理」
- 47 ページの「障害追跡」

Web コンソールについて

Web コンソールは、レジストリを検索し、レジストリとリポジトリにコンテンツを発行するための、Web ベースのユーザーインターフェースです。ここでは、これらの操作を実行する前に必要な準備手順について説明します。

- 15 ページの「Web コンソールの起動」
- 16 ページの「デフォルト言語の変更」
- 17 ページの「レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化」
- 17 ページの「ユーザーアカウントの作成」

Web コンソールの起動

Web コンソールを起動するには、Web ブラウザに次の URL を入力します。

```
http://hostname:port/soar/
```

次に例を示します。

```
http://localhost:6060/soar/
```

レジストリがシステムにインストールされている場合、*hostname* は `localhost` です。レジストリがシステムにインストールされていない場合は、レジストリがインストールされているシステムの名前を使用します。*port* の値は、ポートの競合がないかぎり `6060` です。

Web コンソールの主なセクションは次のとおりです。

- トップバナー。ログイン、ログアウト、ロケールのリセット、現在のセッションの終了、レジストリコンテンツのバージョン管理の設定、およびコンテンツの言語の設定を行うことができます。
- 画面左側のメニュー領域。
- メニュー領域の右側の「レジストリオブジェクト」領域。見つかったオブジェクトが表示されます。
- 「レジストリオブジェクト」領域の下側の「詳細」領域。見つかったオブジェクトの詳細が表示されます。

デフォルト言語の変更

次の 2 種類の情報の表示に使用されるデフォルト言語を変更できます。

- Web コンソールのラベルおよびメッセージ
- レジストリコンテンツ

ラベルおよびメッセージのデフォルト言語の変更

Web コンソールのラベルおよびメッセージは、表 1-1 に示す言語で表示できます。

表 1-1 Web コンソールによってサポートされる言語

言語	コード
簡体字中国語 (中国)	zh_CN
繁体字中国語 (台湾)	zh_TW
英語 (アメリカ合衆国)	en
ドイツ語	de
日本語	ja
韓国語	ko
スペイン語	es

▼ ラベルおよびメッセージの言語を変更する

- 手順
1. **Web** ブラウザの操作手順に従って、該当する言語を **Web** ブラウザの言語環境に追加します。
ほとんどのブラウザでは、「インターネットオプション」、「オプション」、または「設定」ダイアログボックスの「全般」領域に言語の設定項目があります。
 2. 該当する言語を言語リストの先頭に置くことによって、その言語を優先言語にします。
 3. 「ロケールをリセット」ボタンをクリックします。
ラベルが該当する言語で表示されます。

レジストリコンテンツのデフォルト言語の変更

レジストリにコンテンツを発行する際は、トップバナー領域の「コンテンツの言語」ドロップダウンリストに表示されるいずれかの言語を使用できます。デフォルトは、使用している Web ブラウザの言語設定です。

言語をデフォルトから変更するには、「コンテンツの言語」ドロップダウンリストから言語を選択します。

レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化

レジストリオブジェクトのバージョン管理は、デフォルトでは無効になっています。すべてのオブジェクトのバージョン番号は 1.1 に設定されます。オブジェクトを変更したときに、そのオブジェクトに新しいバージョン番号を設定するには、「バージョン管理」チェックボックスを選択します。

ユーザーアカウントの作成

レジストリの公開コンテンツをブラウズするときは、レジストリにログインする必要はありません。ただし、非公開オブジェクトへの読み取りアクセスや公開オブジェクトへの書き込みアクセスを行うには、レジストリにユーザーアカウントを作成する必要があります。ユーザーアカウントを作成すると、オブジェクトの発行、変更、削除などのセキュリティー保護された操作を実行できます。

ユーザーアカウントを作成するには、次の一般的な手順を実行する必要があります。

1. 新規ユーザーの詳細フォームに必要な情報を入力します。
2. 資格のセットをユーザーアカウントに関連付けます。資格は次のいずれかの方法で取得できます。

- レジストリによって資格を自動的に生成できます。この方法では、資格をより簡単に取得できます。
- サードパーティー証明書発行局によって発行された証明書がある場合は、その証明書を使用して資格を取得できます。証明書を使用するには、管理者に、サードパーティールート証明書をレジストリの Application Server ドメインにインストールしてもらう必要があります。詳細については『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「レジストリ用ドメイン内の信頼できる証明書にルート証明書を追加する方法」を参照してください。

ユーザーアカウントを作成するには、次の作業を実行します。

- 18 ページの「ユーザー登録ウィザードの起動」
- 19 ページの「レジストリによって生成された証明書の取得」または 20 ページの「サードパーティー証明書の使用」
- 20 ページの「Mozilla または Firefox Web ブラウザへの証明書の読み込み」または 21 ページの「Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み」
- 22 ページの「レジストリへのログイン」
- 22 ページの「レジストリに対する認証」

▼ ユーザー登録ウィザードの起動

- 手順
1. 左側のメニュー領域で、「ユーザーアカウントを作成」をクリックします。
 2. 「登録ウィザードを開始」ボタンをクリックします。
 3. 「ステップ 1: 要件」の指示を読んで、「次へ」をクリックします。
 4. 「新規ユーザーの詳細」フォームに必要な情報を入力します。
ユーザーの氏名は必ず入力します。その他のフィールドはすべて省略可能です。

Web コンソールにログインすると、トップバナー領域の「現在のユーザー」ラベルのあとに氏名が表示されます。

5. 「次へ」をクリックします。
「ユーザー認証の詳細」ページが表示されます。
6. 「ユーザー認証の詳細」ページで、次のいずれかのラジオボタンを選択します。
 - レジストリで証明書を作成する場合は、「鍵ペアを生成して PKCS12 キーストアをダウンロード」(デフォルト)を選択します。この作業の詳細については、19 ページの「レジストリによって生成された証明書の取得」を参照してください。
 - 既存のサードパーティー証明書を使用する場合は、「X509 証明書 (DER) をアップロード」を選択します。この作業の詳細については、20 ページの「サードパーティー証明書の使用」を参照してください。

▼ レジストリによって生成された証明書の取得

「ユーザー認証の詳細」ページで「鍵ペアを生成して PKCS12 キーストアをダウンロード」ラジオボタンを選択した場合は、次の手順を実行します。

- 手順
1. 「ユーザー認証の詳細」ページで、「エイリアス」テキストフィールドにユーザー名を入力します。
 2. 「パスワード」および「パスワード (繰り返し)」テキストフィールドにパスワードを入力します。
 3. テキストフィールドに値が入力されていない場合は、入力します。
次のようなテキストフィールドがあります。
 - 「組織単位」
 - 「組織」
 - 「市」
 - 「州または都道府県」
 - 「国」

「名前」フィールドに、「新規ユーザーの詳細」フォームの「姓」に指定した名前が表示されます。「新規ユーザーの詳細」フォームで「市」、「州または都道府県」、または「国」を指定した場合は、対応するテキストフィールドにそれぞれの値が表示されます。

すべてのフィールドを入力する必要があります。

4. 「次へ」をクリックします。
「ステップ 4: 鍵を Web ブラウザにロードします」という名前のページが表示され、「新しいユーザーは正常に登録されました。」というメッセージが表示されません。
5. 「ダウンロード」をクリックします。
6. ダイアログボックスで、生成された証明書をディスクに保存するオプションを選択します。ファイル選択ダイアログボックスで、ファイルのディレクトリと名前を選択します。
ファイルには必ず .p12 という拡張子を付けます。

デフォルトでは、ユーザーのホームディレクトリ上の generated-key.p12 という名前のファイルに証明書が保存されます。

次の手順 次に、生成された証明書を Web ブラウザにインポートする必要があります。詳細については、20 ページの「Mozilla または Firefox Web ブラウザへの証明書の読み込み」または 21 ページの「Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み」を参照してください。

▼ サードパーティー証明書の使用

「ユーザー認証の詳細」ページで「X509 証明書 (DER) をアップロード」ラジオボタンを選択した場合は、次の手順を実行します。これらの手順を実行すると、証明書がレジストリのサーバーキーストアに配置され、Web ブラウザに読み込まれます。

始める前に サードパーティー証明書は X.509 形式である必要があります。通常、サードパーティー証明書は .cer という拡張子のファイルに格納されます。

- 手順
1. 「ユーザー認証の詳細」ページで、「証明書ファイルの選択」ボタンをクリックします。
 2. 「ファイルのアップロード」ダイアログボックスで、「ブラウズ」ボタンをクリックしてアップロードするファイルを選択し、「ファイルのアップロード」をクリックします。
 3. 「了解」をクリックします。
「ユーザー認証の詳細」ページの「証明書ファイルの選択」ボタンの隣に、選択したファイル名が表示されます。
 4. 「次へ」をクリックします。
 5. 「ステップ 4: 鍵を Web ブラウザにロードします」ページで、証明書が Web ブラウザにまだ読み込まれていない場合は、指示に従って証明書を Web ブラウザにインポートします。
詳細については、20 ページの「Mozilla または Firefox Web ブラウザへの証明書の読み込み」または 21 ページの「Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み」を参照してください。

▼ Mozilla または Firefox Web ブラウザへの証明書の読み込み

- 手順
1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
 2. サイドバーの「プライバシーとセキュリティ」カテゴリをクリックし、オプションを展開します。
 3. 「証明書」をクリックします。
 4. 右側のメインパネルで、「証明書マネージャー」ボタンをクリックします。
「あなたの証明書」タブが表示されます。
 5. 「インポート」ボタンをクリックします。
 6. 「復元用のファイル名」ファイル選択ダイアログボックスで、.p12 証明書ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

7. プロンプトダイアログボックスで、ソフトウェアセキュリティーデバイスのマスターパスワードに対するアカウントパスワードを入力します。
このパスワードは、ブラウザアカウント専用であり、ブラウザのプロファイル所有者によって割り当てられます。通常は、クライアントマシンのログインアカウントと同じパスワードを使用します。
8. 「パスワードの入力」ダイアログボックスで、証明書のパスワードを入力します。
このパスワードは、クライアント証明書を保護するために使用されます。レジストリによって生成された証明書を使用する場合は、「ユーザー認証の詳細」ページで指定したパスワードを入力します。

アラートダイアログボックスに「セキュリティー証明書と秘密鍵が正常に復元されました」というメッセージが表示されます。
9. 「了解」をクリックします。
10. 「証明書マネージャー」および「設定」ダイアログボックスを閉じます。

次の手順 証明書をインポートすると、レジストリにログインする準備が整います。詳細については、[22 ページの「レジストリへのログイン」](#)を参照してください。

▼ Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み

- 手順
1. 「ツール」メニューから「インターネット オプション」を選択します。
 2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
 3. 「証明書」をクリックします。
 4. 「インポート」をクリックして「証明書のインポート ウィザード」を開きます。
 5. 「証明書のインポート ウィザード」で、「次へ」をクリックします。
 6. 「インポートする証明書ファイル」ページで、「参照」をクリックして **.p12** ファイルを選択し、「次へ」をクリックします。
 7. 「パスワード」ページで、次の手順を実行します。
 - a. 証明書に指定したパスワードを入力します。
 - b. 「このキーをエクスポート可能にする」チェックボックスを選択します。
 - c. 「秘密キーの保護を強力にする」チェックボックスは選択しないでください。
 - d. 「次へ」をクリックします。
 8. 「証明書ストア」ページで、デフォルトの「証明書をすべて次のストアに配置する」(個人)を選択し、「次へ」をクリックします。
 9. 「完了」をクリックします。

10. 表示された情報ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
新しい証明書が、指定した氏名とともに「証明書」ウィンドウに表示されます。
11. 「証明書」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
12. 「インターネット オプション」ウィンドウで「OK」をクリックします。

次の手順 証明書をインポートすると、レジストリにログインする準備が整います。詳細については、[22 ページの「レジストリへのログイン」](#)を参照してください。

▼ レジストリへのログイン

証明書を Web ブラウザにインポートすると、ログインする準備が整います。

- 手順
1. 「ステップ 4: 鍵を Web ブラウザにロードします」ページで、「完了」ボタンをクリックします。
 2. Web コンソールのトップバナー領域で、「ログイン」ボタンをクリックします。
 3. 証明書を確認するための各ダイアログボックスで、「了解」をクリックします。
ログインすると、トップバナー領域に「認証に成功しました。」というメッセージが表示されます。

レジストリに対する認証

レジストリへのログイン後、レジストリオブジェクトの追加、削除、または変更を行うたびに、認証が透過的に行われます。これは、Web ブラウザに読み込まれたクライアント証明書に基づいて、書き込み要求が認証をトリガーするためです。

認証に成功すると、レジストリへのアクセスが https 経由で行われます。

セッションの有効期限が切れると、それ以降はレジストリによる認証が行われなくなります。その後の書き込み要求では、Web コンソールによる再認証が必要になります。

注 – 認証に失敗した場合は、Web ブラウザを終了してから再起動し、再試行してください。

レジストリの検索

レジストリを検索するには、メニュー領域の「検索」リンクと「探索」リンクを使用します。

- 23 ページの「「検索」メニューの使用」
- 23 ページの「クエリーの選択」
- 24 ページの「オブジェクト型による検索」
- 25 ページの「名前および説明による検索」
- 25 ページの「分類による検索」
- 27 ページの「検索結果の表示」
- 29 ページの「オブジェクトの詳細の表示」
- 32 ページの「「探索」メニューの使用」

「検索」メニューの使用

メニュー領域の「検索」をクリックします。「検索」フォームが開きます。このフォームには、次の構成要素があります。

- 「定義済みクエリーを選択」ドロップダウンリスト
- 「名前」テキストフィールド
- 「説明」テキストフィールド
- ClassificationSchemes ツリー

「検索フォームを非表示にする」をクリックすると、「検索」フォームが閉じて結果の領域が消去されます。

次に、上記の構成要素の使用方法について説明します。

クエリーの選択

「定義済みクエリーを選択」ドロップダウンリストには、表 1-2 に示す項目が表示されます。

表 1-2 定義済みクエリー

クエリー名	検索の目的
基本クエリー	オブジェクト型、名前、説明、および分類で検索できる、デフォルトの汎用クエリー。
基本クエリー - 大文字と小文字を区別	大文字と小文字を区別する基本クエリー。

表 1-2 定義済みクエリー (続き)

クエリー名	検索の目的
すべての所有オブジェクトを検索	クエリーを実行したユーザーが所有する (発行した) すべてのオブジェクトを検索します。ユーザーが多数のオブジェクトを所有している場合は、時間が長くなる場合があります。
呼び出し元のユーザーを取得	クエリーを実行したユーザーの User オブジェクトを検索します。

デフォルトでは、基本クエリーが選択されています。基本クエリーの実行方法について次に説明します。

- 24 ページの「オブジェクト型による検索」
- 25 ページの「名前および説明による検索」
- 25 ページの「分類による検索」

自分が発行したすべてのオブジェクトを検索する場合は、「すべての所有オブジェクトを検索」クエリーを使用します。登録時に作成したユーザーのデータを表示して変更する場合は、「呼び出し元のユーザーを取得」クエリーを使用します。

オブジェクト型による検索

もっとも簡単な検索は、オブジェクト型のみを指定する検索です。

「オブジェクト型」ドロップダウンリストでは、デフォルトでレジストリ内のすべてのオブジェクトを検索する「RegistryObject」が選択されています。検索範囲を絞り込むには、オブジェクト型を変更します。

ClassificationNode メニュー項目には、ClassificationSchemes に含まれる Concept が表示されます。ClassificationNode は Concept の同義語です。

▼ オブジェクト型で検索する

- 手順
1. 「オブジェクト型」ドロップダウンリストからオブジェクト型を選択します。
 2. 「検索」ボタンをクリックします。
 検索の結果、指定した型のオブジェクトがすべて返されます。名前、説明、または分類を指定して、検索範囲を絞り込むことができます。

名前および説明による検索

▼ 名前および説明で検索する

- 手順
1. 「定義済みクエリーを選択」ドロップダウンリストから「基本クエリー」または「基本クエリー - 大文字と小文字を区別」を選択します。
 2. 「名前」フィールドまたは「説明」フィールドに文字列を入力します。
 3. 「検索」をクリックします。

デフォルトでは、入力した文字列全体に一致する名前または説明が検索されます。ワイルドカードを使用すると、一定範囲のオブジェクトを検索できます。

ワイルドカード文字は、パーセント (%) と下線 (_) です。

% ワイルドカードは、次のように複数の文字に一致します。

- **%off%** と入力すると、文字列 **off** を含む名前または説明 (Coffee など) が返されます。
- **nor%** と入力すると、**Nor** または **nor** で始まる名前または説明 (North や northern など) が返されます。
- **%ica** と入力すると、**ica** で終わる名前または説明 (America など) が返されず。

下線ワイルドカードは、1つの文字に一致します。たとえば、検索文字列を **_us_** とすると、**Aus1** や **Bus3** などの名前を持つオブジェクトに一致します。

分類による検索

Classification オブジェクトは、Classification Scheme 内部の有効な値を定義する固有の Concept (ClassificationNodes) を使用してレジストリ内のオブジェクトを分類します。Classification Scheme は、子 Concept の世代を含むツリー構造の親です。表 1-3 は、レジストリの仕様によって提供される Classification Scheme を示したものです。この表に示した用語の多くは、レジストリの仕様で定義されています。

表 1-3 Classification Scheme の用途

Classification Scheme 名	使用頻度	説明または目的
AssociationType	頻繁	RegistryObject 間の関連のタイプを定義します。Association インスタンスの associationType 属性の値として使用され、関連の性質を記述します。
ContentManagementService	まれ	コンテンツ管理サービスのタイプを定義します。検証サービスやカタログサービスなどのコンテンツ管理サービスの設定で使用されます。
DataType	頻繁	このマニュアルで定義されているクラス内の属性のデータ型を定義します。Slot インスタンスの slotType 属性の値として使用され、Slot 値のデータ型を記述します。
DeletionScopeType	随時	RemoveObjectsRequest プロトコルメッセージの deletionScope 属性の値を定義します。
EmailType	まれ	電子メールアドレスのタイプを定義します。
ErrorHandlingModel	まれ	コンテンツ管理サービスのエラー処理モデルのタイプを定義します。
ErrorSeverityType	まれ	プロトコルメッセージの処理中にレジストリに発生するエラーの重要度のタイプを定義します。
EventType	随時	レジストリに発生するイベントのタイプを定義します。
InvocationModel	まれ	レジストリによるコンテンツ管理サービスの呼び出し方法を定義します。
NodeType	随時	ClassificationScheme が ClassificationNode (Concept) オブジェクトの code 属性の値を割り当てる方法を定義します。
NotificationOptionType	まれ	レジストリが Subscription 内のイベントを必要なクライアントに通知する方法を定義します。
ObjectType	随時	レジストリがサポートする RegistryObject のタイプを定義します。

表 1-3 Classification Scheme の用途 (続き)

Classification Scheme 名	使用頻度	説明または目的
PhoneType	まれ	電話番号のタイプを定義します。
QueryLanguage	まれ	レジストリがサポートするクエリ言語を定義します。
ResponseStatusType	まれ	RegistryResponse のステータスのタイプを定義します。
StatusType	随時	RegistryResponse のステータスのタイプを定義します。
SubjectGroup	まれ	アクセス制御のためにユーザーが所属するグループを定義します。
SubjectRole	まれ	アクセス制御のためにユーザーに割り当てられるロールを定義します。

メニュー領域では、ClassificationSchemes ツリーのルートは「説明」フィールドの下にあります。

▼ 分類で検索する

- 手順
1. ルートノードを展開すると、**Classification Scheme** の完全なリストが表示されます。
各エントリのあとに付く括弧の数は、親に含まれる **Concept (ClassificationNode オブジェクト)** の数を示しています。
 2. 使用する **Classification Scheme** のノードを展開します。
 3. **Classification Scheme** の下の **Concept** ノードを展開し、検索条件として使用する葉ノードを見つけます。葉ノードとは、その下に **Concept** がないノードです。
 4. 見つかった葉ノードを選択します。
 5. (省略可能) オブジェクト型を選択するか、名前または説明の文字列を指定して、検索範囲を限定します。
 6. 「検索」ボタンをクリックします。

検索結果の表示

検索で見つかったオブジェクトは、「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。

「レジストリオブジェクト」領域は、次の要素で構成されます。

- オブジェクトに対する操作を実行するための「適用」、「承認」、「非推奨」、「非推奨解除」、「関連付け」、および「削除」の各ボタン。これらの操作を実行するには、オブジェクトの作成者またはレジストリ管理者である必要があります。
- 見つかったオブジェクトの表示。これは検索結果の表から成ります。大部分のオブジェクトでは、表の中に次の列が表示されます。
 - 「選択」チェックボックス。2つのオブジェクトを選択すると、「関連付け」ボタンが有効になります。詳細については、[45 ページの「オブジェクト間の関係の作成」](#)を参照してください。
 - 「詳細」リンク。このリンクをクリックすると、「レジストリオブジェクト」領域のすぐ下に「詳細」領域が開きます ([29 ページの「オブジェクトの詳細の表示」](#)を参照)。
 - 「オブジェクト型」フィールド。
 - 「名前」フィールド。
 - 「説明」フィールド。
 - 「バージョン」フィールド。
 - 「バージョンコメント」フィールド。
 - 「ピン」チェックボックス。詳細については、[28 ページの「ピン機能を使用する」](#)を参照してください。

ExtrinsicObject オブジェクトの場合は、「コンテンツのバージョン」と「コンテンツのバージョンコメント」の2つの列が追加されます。これらの列は、ExtrinsicObject のリポジトリ項目に適用されます。

次の2つのオブジェクトでは、「バージョン」列と「バージョンコメント」列が次のように別のコンテンツに置き換わります。

- ExternalLink オブジェクト: 外部 URI
- ServiceBinding オブジェクト: エンドポイント

▼ ピン機能を使用する

ユーザーインターフェースのピン機能を使用すると、別のオブジェクトの検索中に1つまたは複数のオブジェクトを「レジストリオブジェクト」領域に固定できます。その後、2つのオブジェクト間の関係を作成できます。この方法の詳細については、[45 ページの「オブジェクト間の関係の作成」](#)を参照してください。

- 手順
1. 「検索」をクリックしてクエリーを実行します。
 2. 「レジストリオブジェクト」領域で固定する1つまたは複数のオブジェクトの「ピン」チェックボックスを選択します。
 3. 別のクエリーを実行します。
ピンで固定されたオブジェクトと2つ目のクエリーの検索結果がすべて「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。

次の手順 ピンで固定されたオブジェクトを使い終わったら、そのオブジェクトの「ピン」チェックボックスの選択を解除します。選択が解除されたオブジェクトは、別のクエリーを実行すると「レジストリオブジェクト」領域に表示されなくなります。

オブジェクトの詳細の表示

検索結果の表で、オブジェクトの「詳細」リンクをクリックすると、「レジストリオブジェクト」領域のすぐ下に「詳細」領域が開きます。

このセクションには、次のように一連のボタンとタブが表示されます。

- 表示されるボタンは、「適用」、「保存」、「取消し」、「承認」、「非推奨」、「非推奨解除」、および「削除」です。これらのボタンは、オブジェクトに対して実行できる操作を表しています。
- タブは、オブジェクトの属性を表しています。タブは、オブジェクト型によって異なります。表 1-4 は、タブの種類と各タブが適用されるオブジェクトを示しています。

表 1-4 「詳細」領域の属性タブ

タブ名	適用先
<i>Object_Type</i> 詳細	すべてのオブジェクト (<i>Object_Type</i> はオブジェクト型の名前)
スロット	すべてのオブジェクト
Classification	すべてのオブジェクト
外部識別子	すべてのオブジェクト
Associations	すべてのオブジェクト
外部リンク	すべてのオブジェクト
監査証跡	すべてのオブジェクト
住所	Organization、 User
電話番号	Organization、 User
電子メールアドレス	Organization、 User
ユーザー	Organization
Organization	Organization
サービスバインディング	Service
仕様リンク	ServiceBinding
Concept	ClassificationScheme、 ClassificationNode

表 1-4 「詳細」領域の属性タブ (続き)

タブ名	適用先
レジストリオブジェクト	RegistryPackage
Affected Objects	AuditableEvent

タブをクリックすると、オブジェクトに属性の値が存在するかどうかわかります。値が存在する場合は、属性値の「詳細」リンクをクリックすると、Web ブラウザのウィンドウが開き、属性値の詳細が表示されます。

「監査証跡」タブには、「詳細」リンクを含む表は表示されません。代わりに、このタブには次の情報を示す表が表示されます。

- イベントタイプ
- イベントの日時
- イベントを発生させたユーザーの名前

大部分のオブジェクトでは、「詳細」領域に次のフィールドが表示されます。

- 「一意の識別子」。すべてのオブジェクトで、「一意の識別子」はアクティブなリンクです。このリンクをクリックすると、Web ブラウザのウィンドウにそのオブジェクトの XML が表示されます。レジストリオブジェクトはすべて XML 形式で保存されています。
- 「論理一意識別子」。「論理一意識別子」は、通常、「一意の識別子」と同じです。バージョン管理を有効にした場合、「論理一意識別子」はオブジェクトのすべてのバージョンで同じですが、新しいバージョンの「一意の識別子」にはバージョン番号を示すサフィックスが付きます。
- 「名前」。
- 説明
- 「状態」(通常は、オブジェクトがレジストリに発行されたことを示す「送付されました」)。
- 「バージョン」。
- 「バージョンコメント」。

多くのオブジェクトで、ほとんどのフィールドが説明を必要としません (Organization の住所など)。一部のオブジェクトには、説明を必要とするフィールドがあります。これらのフィールドについて次に説明します。

- 30 ページの「Association の詳細の表示」
- 31 ページの「Classification Scheme の詳細の表示」
- 31 ページの「付帯オブジェクトの詳細の表示」
- 32 ページの「外部リンクの詳細の表示」

Association の詳細の表示

Association オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されます。

- 「ソースオブジェクト ID」と「ターゲットオブジェクト ID」。関連のソースオブジェクトとターゲットオブジェクトの両方について、パネルに一意の識別子と論理識別子が表示されます。「ソースの所有者により確認済み」チェックボックスは、関連がソースオブジェクトの所有者によって確認または承認されたかどうかを示します。「ターゲットの所有者により確認済み」チェックボックスは、関連がターゲットオブジェクトの所有者によって確認または承認されたかどうかを示します。区域内の関連の場合、これらのチェックボックスは常に選択されています。
- 「Association タイプ」。このメニューには、選択された Association のタイプが表示されます。
- 「区域外」。このチェックボックスは、2つの関連するオブジェクトのうち少なくとも1つが Association を作成したユーザー以外によって所有される場合に選択されます。それ以外の場合、Association は区域内として定義されます。

Classification Scheme の詳細の表示

ClassificationScheme オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されます。

- 「外部 Classification Scheme」チェックボックス。このチェックボックスは、Classification Scheme がレジストリの外部で定義され、Concept を持たない場合に選択されます。内部 Classification Scheme の場合は、Concept の階層がレジストリの内部で定義されています。
- 「値タイプ」メニュー。次の選択項目があります。
 - 「Unique」：この値は、分類基準の各ノードに一意のコードが割り当てられることを示します。これは、Service Registry で Classification Scheme を作成した場合のデフォルト値です。
 - 「EmbeddedPath」：この値は、分類基準の各ノードに割り当てられた一意のコードにノードのパスもエンコードされることを示します。
 - 「NonUnique」：ノードが一意でなく、ノードの識別に ClassificationScheme から該当するノードまでの完全なパスを使用する必要がある場合があります。たとえば、地理的な分類では、Moscow が Russia の下と USA の下の両方に存在する可能性があります。これは、米国の5つの州に Moscow という名前の都市があるためです。

付帯オブジェクトの詳細の表示

ExtrinsicObject オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されません。

- 「コンテンツのバージョン」および「コンテンツのバージョンコメント」。「詳細」領域には、付帯オブジェクトに関連付けられたリポジトリ項目のバージョンと省略可能なコメントが表示されます。
- 「MIMEType」。このフィールドには、付帯オブジェクトの MIME タイプが表示されます。

- 「不透明」チェックボックス。このチェックボックスは、暗号化されているなどの理由により、レジストリがリポジトリ項目の内容を読み取ることができない場合に選択されます。
- 「オブジェクト型」。このフィールドには、ObjectType/ExtrinsicObject ツリー内の下位 Concept が表示されます。
- 「リポジトリ項目の内容を表示」リンク。このリンクをクリックすると、Web ブラウザのウィンドウにそのリポジトリ項目が表示されます。

外部リンクの詳細の表示

ExternalLink オブジェクトの「詳細」領域には、「外部 URI」フィールドの下に「コンテンツを表示」リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、ブラウザのウィンドウに URI のコンテンツが表示されます。

「探索」メニューの使用

「探索」メニューを使用すると、ファイルフォルダの階層のメタファーを使用してレジストリとリポジトリのコンテンツを検索できます。root という名前のルートフォルダにすべてのレジストリコンテンツが含まれます。

▼ 「探索」メニューを使用する

- 手順
1. 「探索」リンクをクリックします。
 2. **root** という名前のフォルダを展開します。このフォルダには、2つのサブフォルダがあります。すべてのユーザーコンテンツが置かれているフォルダである **userData** と **ClassificationSchemes** です。
 3. フォルダをクリックすると、該当する型のレジストリオブジェクトが表示されます。ノードを展開すると、次のレベルのオブジェクト型が表示されます。

次の手順 作業が終了したら、「探索を非表示にする」をクリックして「探索」メニューを閉じ、結果の領域を消去します。

▼ Classification Scheme を探索する

- 手順
1. **ClassificationSchemes** フォルダをクリックします。ノード記号をクリックしないでください。
すべての ClassificationScheme オブジェクトが「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。オブジェクトを表示するには、27 ページの「検索結果の表示」の手順に従います。

2. **ClassificationSchemes** ノードを展開し、メニュー領域に **ClassificationSchemes** のツリー階層を開きます。
3. ファイルアイコンをクリックすると、その **Classification Scheme** が「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。
4. **Classification Scheme** ノードを展開すると、その下にある **Concept** フォルダが表示されます。
必ずしもすべての **Classification Scheme** に、「探索」メニューに表示できる **Concept** があるとは限りません。
5. **Concept** フォルダをクリックすると、その **Concept** が「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。

▼ userData フォルダを探索する

- 手順
1. **userData** ノードを展開します。
 2. **RegistryObject** ノードを展開します。すべてのレジストリオブジェクトを表示する場合以外は、このフォルダをクリックしないでください。
folder1 という名前のノードには内容がありません。
 3. フォルダをクリックすると、該当する型のレジストリオブジェクトが表示されます。ノードを展開すると、次のレベルのオブジェクト型が表示されます。

レジストリオブジェクトの発行と管理

「新規レジストリオブジェクトを作成」メニュー項目を選択すると、オブジェクトを作成してレジストリに発行できます。

- 34 ページの「オブジェクトの発行」
- 35 ページの「オブジェクトへの分類の追加」
- 36 ページの「オブジェクトへの外部識別子の追加」
- 37 ページの「オブジェクトへの外部リンクの追加」
- 37 ページの「スロットによるオブジェクトへのカスタム情報の追加」
- 38 ページの「Organization または User への住所の追加」
- 39 ページの「Organization または User への電話番号の追加」
- 39 ページの「Organization または User への電子メールアドレスの追加」
- 40 ページの「Organization へのユーザーの追加」
- 41 ページの「Organization への子組織の追加」
- 41 ページの「Service へのサービスバインディングの追加」
- 42 ページの「サービスバインディングへの仕様リンクの追加」

- 42 ページの「Classification Scheme または Concept への子 Concept の追加」
- 43 ページの「レジストリパッケージへのオブジェクトの追加」
- 44 ページの「オブジェクトの状態の変更」
- 44 ページの「オブジェクトの削除」
- 45 ページの「オブジェクト間の関係の作成」

オブジェクトの発行

オブジェクトをレジストリに発行するには、次の3つの手順が必要です。

1. オブジェクトを作成します。
2. 詳細やその他のオブジェクトを追加します。これらはメモリーに保存されますが、レジストリには発行されません。
3. オブジェクトをレジストリに発行します。

オブジェクトをレジストリに発行できるのは、ユーザーアカウントの作成とログインが完了している場合です。ユーザーアカウントの作成を行うには、17 ページの「ユーザーアカウントの作成」の手順に従います。

▼ 新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する

- 手順
1. メニュー領域で、「新規レジストリオブジェクトを作成」をクリックします。
 2. 「レジストリオブジェクト」領域で、ドロップダウンリストからオブジェクト型を選択し、「追加」をクリックします。
「詳細」領域に、オブジェクトの「詳細」フォームが表示されます。
 3. 「詳細」フォームのフィールドに名前と、必要に応じて説明を入力します。「詳細」フォームに表示されるその他のフィールドに値を入力します。

注 - AdhocQuery オブジェクトを作成し、クエリー文字列を入力する場合は、一重引用符を使って、通常一重引用符で囲む項目を囲みます。このような項目として、一般にサブクエリーに含まれるパラメータプレースホルダーやリテラルがあります。たとえば、サブクエリー内のパラメータプレースホルダーは、次のように指定します。

```
(SELECT id FROM ClassificationNode WHERE path LIKE '$objectTypePath')
```

リテラルとパラメータプレースホルダーの両方を指定する場合は、次のようにします。

```
... AND (ro.id = s.parent AND s.name_ =  
'urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:profile:ws:wSDL:nameSpacesUsed'  
AND s.value LIKE '$nameSpacePattern')
```

4. (省略可能) 割り当てられた「一意の識別子」と「論理一意識別子」を自分で選んだ識別子に置き換えます。

識別子は、有効な URN であり、レジストリのインストール内部で一意である必要があります。

5. (省略可能) 「保存」をクリックして、オブジェクトをメモリーに保存します。
6. (省略可能) 「詳細」フォームのタブを使用して、合成オブジェクトを追加および保存します。
7. 「適用」をクリックして、オブジェクトをレジストリに発行します。
正常に適用されたかどうかを示す状態メッセージが表示されます。

次の手順 オブジェクトを発行する前またはあとで、ほかの合成オブジェクトを追加することによってオブジェクトを編集できます。表 1-4 は、追加できるオブジェクトを示しています。これらのオブジェクトの追加方法について次に説明します。

オブジェクトへの分類の追加

分類を作成するには、内部 *Classification Scheme* を使用します。内部 *Classification Scheme* には、レジストリにとって既知の値を持つ *Concept* のセットが含まれます。

▼ 分類を追加する

分類をオブジェクトに追加するには、適切な *Classification Scheme* を検索し、その *Classification Scheme* 内の *Concept* を選択します。

- 手順
1. オブジェクトの「詳細」領域で「**Classification**」ボタンをクリックします。
「**Classification**」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。

2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
3. 分類の名前と、必要に応じて説明を入力します。
4. 「**ClassificationScheme** または **Concept** を選択」ボタンをクリックします。
ClassificationScheme/Concept の選択ウィンドウが開きます。
5. **ClassificationSchemes** ノードを展開し、**Concept** ノードを展開して、使用する葉ノードを選択します。
6. 「了解」をクリックして、**ClassificationScheme/Concept** の選択ウィンドウを閉じます。
選択した Classification Scheme および Concept が詳細パネルウィンドウに表示されます。
7. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
8. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

オブジェクトへの外部識別子の追加

外部識別子を作成するには、外部 *Classification Scheme* を使用します。外部 *Classification Scheme* には *Concept* が存在しないため、その値はレジストリにとって既知ではありません。

▼ 外部識別子を追加する

外部識別子をオブジェクトに追加するには、適切な *Classification Scheme* を検索し、値を指定します。

- 手順
1. オブジェクトの「詳細」領域で、「外部識別子」タブをクリックします。
「外部識別子」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 外部識別子の名前と、必要に応じて説明を入力します。
 4. 「**ClassificationScheme** を選択」ボタンをクリックします。
ClassificationScheme/Concept の選択ウィンドウが開きます。
 5. **ClassificationSchemes** ノードを展開し、**Concept** が存在しない **Classification Scheme** を選択します。

6. 「了解」をクリックして、**ClassificationScheme/Concept** の選択ウィンドウを閉じます。
選択した Classification Scheme が詳細パネルウィンドウに表示されます。
7. 「値」フィールドに値を入力します。
8. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
9. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

オブジェクトへの外部リンクの追加

外部リンクは、URI をレジストリオブジェクトに関連付けるために使用されます。

▼ 外部リンクを追加する

- 手順
1. オブジェクトの「詳細」領域で、「外部リンク」タブをクリックします。
「外部リンク」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 外部リンクの名前を入力します。
 4. 「外部 URI」フィールドに外部リンクの URL を入力します。
 5. (省略可能) URL が指し示すコンテンツのタイプを指定する場合は、「オブジェクト型の **Concept** を選択」ボタンをクリックします。
ClassificationSchemes ノードを展開し、ObjectType ノード、RegistryObject ノード、およびExtrinsicObject ノードを展開して、コンテンツタイプを選択します。
Concept を選択し、「了解」をクリックします。適切なタイプが見つからない場合は、「取消し」をクリックします。必要な場合は、ExtrinsicObject の新しい Concept を作成できます。
 6. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 7. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

スロットによるオブジェクトへのカスタム情報の追加

スロットには、ほかの手段ではレジストリに保存されない追加情報が格納されます。スロットは、オブジェクトに任意の属性を追加する手段になります。

▼ スロットを追加する

- 手順
1. オブジェクトの「詳細」領域で、「スロット」タブをクリックします。
「スロット」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. スロットの名前を入力します。
 4. (省略可能) 「スロットタイプ」フィールドに値を入力します。このフィールドを使用して、スロットのデータ型を指定したり、複数のスロットをグループ化したりできます。
 5. 「値」フィールドに値を入力します。
 6. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 7. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization または User への住所の追加

Organization または User は、1 つまたは複数の住所を持つことができます。

▼ 住所を追加する

- 手順
1. **Organization** または **User** の「詳細」領域で、「住所」タブをクリックします。
「住所」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. フィールドに値を入力します。これらのフィールドはすべて省略可能です。
 - 「番地」
 - 「町」
 - 「市」
 - 「州または都道府県」
 - 「国」
 - 「郵便番号」
 4. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。

- オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization または User への電話番号の追加

Organization または User は、1 つまたは複数の電話番号を持つことができます。

▼ 電話番号を追加する

- 手順
- Organization** または **User** の「詳細」領域で、「電話番号」タブをクリックします。
「電話番号」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
 - 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 - 「タイプ」コンボボックスから値を選択します。
次の値から選択できます。
 - 「ポケットベル」
 - 「FAX」
 - 「自宅電話」
 - 「携帯電話」
 - 「会社電話」
 - フィールドに値を入力します。これらのフィールドはすべて省略可能です。
 - 「国番号」
 - 「市外局番」
 - 「電話番号」
 - 「内線」
 - 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 - オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization または User への電子メールアドレスの追加

Organization または User は、1 つまたは複数の電子メールアドレスを持つことができます。

▼ 電子メールアドレスを追加する

- 手順
1. **Organization** または **User** の「詳細」領域で、「電子メールアドレス」タブをクリックします。
「電子メールアドレス」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 「タイプ」コンボボックスから値（「自宅電子メール」または「会社電子メール」）を選択します。
 4. 「電子メールアドレス」フィールドに値を入力します。
 5. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 6. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization へのユーザーの追加

Organization は、1 人または複数のユーザーを持つことができます。ユーザーの 1 人は主担当者になります。通常、主担当者はその Organization を作成したユーザーです。ユーザーをさらに作成して追加することもできます。

▼ ユーザーを追加する

- 手順
1. **Organization** の「詳細」領域で、「ユーザー」タブをクリックします。
「ユーザー」表が表示されます。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 「名前」フィールドで、コンマの左側にユーザーの姓を入力します。必要に応じてコンマの右側に名およびミドルネームを入力します。
 4. (省略可能) 「説明」フィールドにユーザーの説明を入力します。
 5. 「名」、「ミドルネーム」、および「姓」フィールドに、ユーザーの名、ミドルネーム、および姓を入力します。これらのフィールドはすべて省略可能です。
 6. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 7. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization への子組織の追加

Organization は、1つまたは複数の子組織を持つことができます。Organization に子組織を追加するには、次の手順を実行します。

▼ 子組織を追加する

- 手順
1. **Organization** の「詳細」領域で、「子組織」タブをクリックします。
「子組織」表が表示されます。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 「名前」フィールドに新しい組織の名前を入力します。
 4. (省略可能) 「説明」フィールドに説明を入力します。
 5. (省略可能) 住所フィールドに値を入力します。
 6. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 7. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Service へのサービスバインディングの追加

Service は、通常、1つまたは複数のサービスバインディングを持っています。

▼ サービスバインディングを追加する

- 手順
1. **Service** の「詳細」領域で、「サービスバインディング」タブをクリックします。
「サービスバインディング」表が表示されます。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 「名前」フィールドにサービスバインディングの名前を入力します。
 4. (省略可能) 「説明」フィールドにサービスバインディングの説明を入力します。
 5. 「アクセス URL」フィールドにサービスバインディングの **URL** を入力します。
 6. (省略可能) 「ターゲットバインディング」フィールドに、この **ServiceBinding** が参照する別の **ServiceBinding** の一意の識別子を入力します。

7. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
8. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

サービスバインディングへの仕様リンクの追加

ServiceBinding は、通常、1つの SpecificationLink オブジェクトを持っています。

▼ 仕様リンクを追加する

- 手順
1. **ServiceBinding** の「詳細」領域で、「仕様リンク」タブをクリックします。
「仕様リンク」表が表示されます。
 2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
 3. 「名前」フィールドに **SpecificationLink** の名前を入力します。
 4. (省略可能) 「説明」フィールドに **SpecificationLink** の説明を入力します。
 5. 使用法パラメータがある場合は、「使用法の説明」フィールドにそのパラメータの使用法の説明を入力します。
 6. 使用法パラメータがある場合は、「使用法パラメータ」フィールドに使用法パラメータを入力します。
 7. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
 8. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Classification Scheme または Concept への子 Concept の追加

ClassificationScheme は、通常、多数の子 Concept を持っています。また、それらの子 Concept も子 Concept を持つことができます。

▼ 子 Concept を追加する

- 手順
1. **ClassificationScheme** の「詳細」領域で、「**ChildConcepts**」タブをクリックします。
「ChildConcepts」表が表示されます。

2. 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
3. 「名前」フィールドに **Concept** の名前を入力します。
4. (省略可能) 「説明」フィールドに **Concept** の説明を入力します。
5. 「値」フィールドに **Concept** の値を入力します。
6. 「追加」をクリックして、新しいオブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
7. オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

レジストリパッケージへのオブジェクトの追加

RegistryPackage は、ほかのレジストリオブジェクトを包含するオブジェクトです。通常、RegistryPackage は論理的に関連するオブジェクトをグループ化するために使用します。グループ化するオブジェクトの種類や所有者は異なってもかまいません。

RegistryPackage にオブジェクトを追加するには、各オブジェクトの一意の識別子を指定します。一意の識別子を入力すると間違いやすいため、次の手順では、識別子のコピーとペーストによってオブジェクトを追加する方法について説明します。

▼ レジストリパッケージにオブジェクトを追加する

- 手順
1. [34 ページ](#)の「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」で説明した手順に従って、**RegistryPackage** オブジェクトを作成します。名前と、必要に応じて説明を入力します。ただし、この時点では **RegistryObjects** を **RegistryPackage** に追加しないでください。
 2. 「適用」をクリックして **RegistryPackage** を保存したら、[28 ページ](#)の「ピン機能を使用する」で説明した手順に従って、**RegistryPackage** をピンで固定します。
 3. **Web** コンソールを使用して、**RegistryPackage** に追加するオブジェクトを検索します。検索したオブジェクトをそれぞれピンで固定します。
 4. **RegistryPackage** に追加するオブジェクトの「詳細」リンクをクリックします。
 5. オブジェクトの詳細パネルで、キーボード (**Control-C** または **Copy** キー) を使用して、一意の識別子をコピーします。
 6. 「検索結果」領域で、**RegistryPackage** の「詳細」リンクをクリックします。
 7. オブジェクトの「詳細」領域で、「レジストリオブジェクト」タブをクリックします。

8. 「パッケージに追加」をクリックします。
9. 「一意の識別子」フィールドで、キーボード (**Control-V** または **Paste** キー) を使用して、コピーした一意の識別子をペーストします。
10. 「追加」をクリックします。
追加したオブジェクトが「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。
11. 「詳細」領域の「適用」をクリックして **RegistryPackage** を保存します。
12. 手順 4 から 11 までを繰り返して、**RegistryPackage** に各オブジェクトを追加します。

オブジェクトの状態の変更

オブジェクトの所有者である場合、または該当する操作を実行する権限がある場合は、オブジェクトの発行、編集、および削除に加えて、次の操作を実行できます。

- 承認
- 非推奨
- 非推奨解除

これらの機能は、本稼働環境でレジストリオブジェクトのバージョン管理ポリシーを確立するのに役立ちます。たとえば、オブジェクトのあるバージョンを一般的な用途のために承認し、古いバージョンは削除する前に非推奨にします。オブジェクトを非推奨にしたあとで考えが変わった場合は、そのオブジェクトの非推奨を解除できます。

これらの操作は、すべて「検索結果」領域で実行します。

- オブジェクトを承認するには、そのオブジェクトを選択して「承認」ボタンをクリックします。承認の確認メッセージが表示され、監査証跡にイベントが追加されます。
- オブジェクトを非推奨にするには、そのオブジェクトを選択して「非推奨」ボタンをクリックします。非推奨の確認メッセージが表示されます。監査証跡にイベントが追加されます。
- オブジェクトの非推奨を解除するには、そのオブジェクトを選択して「非推奨解除」ボタンをクリックします。非推奨解除の確認メッセージが表示され、監査証跡にイベントが追加されます。

オブジェクトの削除

所有するオブジェクトをレジストリから削除するには、「検索結果」領域のオブジェクトを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

注 - 所有するオブジェクトの `AuditableEvent` オブジェクトは削除しないでください。つまり、「すべての所有オブジェクトを検索」検索の結果として「検索結果」領域に表示された `AuditableEvent` オブジェクトは削除しないでください。`AuditableEvent` オブジェクトを削除すると、`AuditableEvent` オブジェクトが属するオブジェクトの監査証跡が壊れます。

オブジェクトが付帯オブジェクトである場合は、次の2つの方法があります。

- `ExtrinsicObject` レジストリオブジェクトとそのオブジェクトが参照するリポジトリ項目の両方を削除するには、「削除オプション」メニューから「オブジェクトとリポジトリ項目を削除」(デフォルト)を選択します。
- リポジトリ項目を削除し、レジストリ内の `ExtrinsicObject` を残すには、「リポジトリ項目だけを削除」を選択します。その後、別のリポジトリ項目を追加できます。

「削除オプション」メニューは、付帯オブジェクトの場合にのみ意味があります。

オブジェクト間の関係の作成

オブジェクト間の関係には、参照と関連の2種類があります。どちらも単方向の関係です。つまり、それぞれの関係にソースオブジェクトとターゲットオブジェクトがあります。

レジストリは、特定の型のオブジェクト間で `ObjectRefs` と呼ばれる参照をサポートします。たとえば、`Service` と `ServiceBinding` を作成する場合は、`Service` から `ServiceBinding` への `ServiceBinding` 参照を作成できます。しかし、`ServiceBinding` から `Service` への参照は作成できません。`Reference` はレジストリオブジェクトではありません。

`Association` はレジストリオブジェクトであり、任意のレジストリオブジェクト間の `Association` を作成できます。レジストリは、`OffersService`、`RelatedTo`、`HasMember` などのさまざまな定義済み `Association` タイプを含む `AssociationType Classification Scheme` をサポートします。新しい `Association` タイプを作成することもできます。所有するレジストリオブジェクト間の関連は、区域内の関連と呼ばれます。一方または両方のオブジェクトを所有していない関連は、区域外の関連と呼ばれます。`Organization` を作成し、それに `Service` を追加した場合は、`Organization` から `Service` に対して `OffersService` というタイプの `Association` が自動的に作成されます。

ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトに有効な参照が存在しない場合は、参照を作成できません。

2つのオブジェクトを関連付けるには、「レジストリオブジェクト」領域の「関連付け」ボタンを使用します。このボタンは、検索結果の表で2つのオブジェクトを選択するとアクティブになります。

2つのオブジェクトを検索結果の表に同時に表示できない場合は、「ピン」チェックボックスを選択して一方のオブジェクトを検索結果の表に固定してから、それに関連付けるオブジェクトを検索します。詳細については、28 ページの「ピン機能を使用する」を参照してください。

▼ Reference を作成する

- 手順
1. 「レジストリオブジェクト」領域で、2つのオブジェクトを選択し、「関連付け」をクリックします。
 2. 「関係を作成」領域で、ソースオブジェクトがまだ選択されていない場合は、選択します。
もう一方のオブジェクトがターゲットオブジェクトになります。

ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトに有効な参照が存在する場合は、デフォルトで「参照」オプションが選択され、有効な参照属性が表示されます。ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトに有効な参照が存在しない場合は、「参照」ラジオボタンがグレー表示されます。
 3. 「保存」をクリックして参照を保存します。

▼ Association を作成する

- 手順
1. 「レジストリオブジェクト」領域で、2つのオブジェクトを選択し、「関連付け」をクリックします。
 2. 「関係を作成」領域で、ソースオブジェクトがまだ選択されていない場合は、選択します。
もう一方のオブジェクトがターゲットオブジェクトになります。
 3. 「**Association**」ラジオボタンがまだ選択されていない場合は、選択します。
 4. 「詳細」領域で、**Association** の名前と、必要に応じて説明を入力します。
ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトの ID 値はすでに入力されています。
 5. 「**Association** タイプ」メニューからタイプを選択します。
 6. 「適用」をクリックして **Association** を保存します。

障害追跡

ここでは、Web コンソールの使用時に発生する可能性がある問題の解決方法について説明します。

Service Registry にアクセスできない

Web コンソールを使用しようとして、エラー 404 または「接続が拒否されました」というメッセージが表示された場合は、レジストリが実行されていないか、または不正な URL を指定した可能性があります。

指定した URL が `http://hostname:6060/soar/` となっているかどうかを確認します。場合によっては、次のようにホスト名に加えてドメインも指定する必要があります。 `hostname.domain`

レジストリが実行されていることを確認するには、レジストリの Application Server ドメインに対してコマンド行または Web インタフェースを使用します。詳細については、『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「Service Registry 用 Application Server ドメインの管理」を参照してください。

優先ロケールが使用されない

Web コンソールで優先ロケールが使用されない場合は、Web ブラウザの環境設定で、優先ロケールがロケールのリストの先頭に表示されているかどうかを確認します。詳細については、16 ページの「デフォルト言語の変更」を参照してください。

検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない

ロケールを変更して「ロケールをリセット」をクリックしたあと、検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない場合は、「セッションを終了」をクリックし、「レジストリへ戻る」をクリックします。ロケールの変更については、16 ページの「デフォルト言語の変更」を参照してください。

ExternalLink や ServiceBinding を作成できない

次のような状況でエラーが表示されることがあります。

- ExternalLink オブジェクトの ExternalURI を指定したとき
- ServiceBinding オブジェクトの AccessURI を指定したとき

このエラーメッセージは、次のようなものです。

URL: *uri* は解決できません。

絶対パス形式 [scheme:] [//authority] [path] [?query] [#fragment] を使用してください。

このエラーは、『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「外部 Web サイトへのアクセス許可」で説明されている管理作業がまだ実行されていないことを意味しています。これらのオブジェクトを作成するには、サイトの Service Registry 管理者がこの作業を実行し、レジストリを再起動する必要があります。

Web コンソールのエラーメッセージが消えない

Web コンソールのエラーメッセージの原因と思われる問題を解決するには、レジストリの Application Server ドメインのサーバーログを調べます。詳細については、『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「Service Registry 用 Application Server ドメインの管理」を参照してください。

新しいレジストリオブジェクトを保存できない

新しいオブジェクトをレジストリに保存しようとしたときにエラーメッセージが表示された場合は、次のいずれかを実行します。

- レジストリによって生成された証明書を使用している場合は、その証明書が Web ブラウザにインポートされているかどうかを確認します。
- サードパーティ証明書を使用している場合は、管理者が証明書発行局のルート証明書をレジストリの Application Server ドメインの truststore に配置したかどうかを確認します。詳細については、『Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』の「レジストリ用ドメイン内の信頼できる証明書にルート証明書を追加する方法」を参照してください。

Web コンソールが応答しない

レジストリのコンソールが応答しない場合は、次の手順を実行します。

1. 表示されたエラーメッセージを書き留めます。
2. Web ブラウザのセッションCookie を消去します。Cookie を消去するには、レジストリが実行されているサイトで JSESSIONID という名前の Cookie を探し、それを削除します。不明な場合は、すべての Cookie を削除します。
3. 15 ページの「Web コンソールの起動」で説明した手順に従って、Web コンソールを再起動します。
4. レジストリサポートに連絡し、エラーメッセージとエラーが発生したときの操作を伝えます。

索引

数字・記号

_ (下線), 検索に使用するワイルドカード, 25

C

Classification Scheme, 25-27

子 Concept の追加, 42-43

詳細の表示, 31

classification schemes, 探索, 32-33

Concept, Classification Scheme への追加, 42-43

E

Error 404 メッセージ, 47

O

Organization

子組織の追加, 41

住所の追加, 38-39

電子メールアドレスの追加, 39-40

電話番号の追加, 39

ユーザーの追加, 40

S

Service, サービスバイディングの追加, 41-42

U

URL 解決不可メッセージ, 47-48

User

住所の追加, 38-39

電子メールアドレスの追加, 39-40

電話番号の追加, 39

userData フォルダ, 探索, 33

W

Web コンソール, 起動, 15-16

お

オブジェクト型, 検索, 24

か

外部識別子, レジストリオブジェクトへの追加, 36-37

外部リンク

障害追跡, 47-48

詳細の表示, 32

レジストリオブジェクトへの追加, 37

監査証跡, 表示, 29-32

関連

作成, 45-46

詳細の表示, 30-31

く

クエリー, 定義済み, 23-24

け

言語, デフォルトの変更, 16-17
「検索」メニュー, 23

こ

子組織, Organization への追加, 41

さ

サービスバインディング
Service への追加, 41-42
障害追跡, 47-48
仕様リンクの追加, 42
「削除オプション」メニュー, 44-45
参照, 作成, 45-46

し

住所, Organization または User への追加, 38-39
障害追跡, 47-48
「詳細」領域, 29-32
証明書, 取得, 17-22
仕様リンク, サービスバインディングへの追加, 42

す

スロット, レジストリオブジェクトへの追加, 37-38

せ

接続拒否メッセージ, 47

た

「探索」メニュー, 32-33

て

定義済みクエリー, 23-24
電子メールアドレス, Organization または User への追加, 39-40
電話番号, Organization または User への追加, 39

は

バージョン管理, 有効化, 17
% (パーセント記号), 検索に使用するワイルドカード, 25

ひ

ピン機能, 使用, 28-29

ふ

付帯オブジェクト, 詳細の表示, 31-32
分類
検索, 25-27
レジストリオブジェクトへの追加, 35-36

ゆ

ユーザー, Organization への追加, 40
ユーザーアカウント, 作成, 17-22
ユーザー登録ウィザード, 18

よ

用語集, リンク, 10

れ

- レジストリオブジェクト
 - エラーの発行, 48
 - オブジェクト型による検索, 24
 - 外部識別子の追加, 36-37
 - 外部リンクの追加, 37
 - カスタム情報の追加, 37-38
 - 関係の作成, 45-46
 - 関連の作成, 45-46
 - 検索結果の表示, 27-29
 - 削除, 44-45
 - 作成, 34-35
 - 詳細の表示, 29-32
 - 承認、非推奨、または非推奨解除, 44
 - スロットの追加, 37-38
 - 名前および説明による検索, 25
 - 発行, 34-35
 - 分類による検索, 25-27
 - 分類の追加, 35-36
 - レジストリパッケージへの追加, 43-44
- レジストリオブジェクトの削除, 44-45
- レジストリオブジェクトの作成, 34-35
- レジストリオブジェクトの承認, 44
- レジストリオブジェクトの説明, 検索, 25
- レジストリオブジェクトの名前, 検索, 25
- レジストリオブジェクトの発行, 34-35
- レジストリオブジェクトの非推奨, 44
- レジストリオブジェクトの非推奨解除, 44
- 「レジストリオブジェクト」領域, 27-29
 - オブジェクトの固定, 28-29
- レジストリパッケージ, レジストリオブジェクトの追加, 43-44

ろ

- ロケール
 - 障害追跡, 47
 - 設定, 16-17

わ

- ワイルドカード, 検索に使用, 25

